Q 中学校給食の実施を促す

中学校給食についてはこれまで何回か質問されたと聞いておりますが、私の考えを述べさせていただき質問とさせていただきます。

平成21年５月の文部科学省の調べでは、全国の公立中学校の給食の実施率は81.6％です。京都府では、61.7％が実施されています。

私は今まで学校給食は小学校までのものと思っていましたが、全国で未実施が18.4％に過ぎないことに、正直、驚きを覚えました。

私は小学校PTAの役員や子供会活動の中で、中学校給食の意見もありましたが、あまり気をかけずにきました、京都府でも未実施は38.3％と少数派になっています。

学校給食法で、「子どもの心身の健全な発達に資すると同時に、食に関する理解を養う上で重要」と位置づけられており、小中学校での実施が市町村の努力義務とされています。

弁当は本来、家庭の責任であり行政の責任ではないということは理解できます。しかし、自治体の努力義務として、今こそ、もう少し子育て支援に力を注いでもいいのではないかと考えます。

親が忙しくて弁当作りに不慣れな家庭の場合やレトルトやインスタントが当たり前の親世代であることを考えた場合、子供の成長を考えたとき、これでよいのかという気持ちになります。弁当の場合、残さずに全部食べてほしいという親心から、子供の好きなものに偏ってしまう傾向もあるのではないかと思います。

毎日持参する弁当の中身は、ハンバーグやミートボールなど冷凍食品の肉類が主流を占め、野菜類が不足しがちになりやすいものです。さらに、柔らかい食材が多く、噛むという一番重要なことが、疎かになる傾向があるのではないかと思います。

小学校までは、学校給食で成長に応じた食育の一環を担えていたものが、中学生になったとたん好きなものだけを食べた結果、偏食や肥満、無理なダイエットにつながる恐れがあります。

小学校の６年間と中学校の３年間計９年間で、子供の成長に応じた必要な栄養バランスをとることと、正しい食事の習慣をつけることが強靭な体を作ることにつながると考えています。

また、一日３食の内一食は学校給食で保証することは、親の負担を減らし、何らかの事情で弁当を持っていけないストレスを親子で感じることを防げることになります。

給食でバランスの良い食事をとり、地元の食材を使った食育をすすめるためにも中学校給食は意義あるものではないでしょうか。

このことから、私は、中学校給食を実施されてはと考えます。

実施の方法については、１か所で集中して調理し、それぞれに配送する方法、各校に調理室を設けてそこで調理する方法等があると思いますが、私は、統廃合により廃校となった旧第四小学校や旧第五小学校の調理室等を有効活用した方法が経費等の面から一番良いと考えます。

本件の要点を集約すると、

1．現在未使用学校の調理室を改修できないか
2．新しく各中学に施設を設けることの可能性と経費について
3．市の中学校給食に対する考え方

A ▶茨木教育部長の答弁

本件に関しては茨木教育部長から現在未使用中の旧八幡第四小学校、旧八幡第五小学校の現況報告と経費の細部にわたっての説明があり、初期投資経費やランニングコストは分りましたが再質問に立ち市の見解を質しました。

検討委員会の設置を考えたい。

中学校給食の再質問にお答えいたします。

先ほどご答弁いたしましたように、中学校給食は、大きな課題と認識しておりますことから、まずは、学校関係者らをまじえまして、必要性や有効性などを検討してまいりたいと考えております。

一生懸命聞いたことには一生懸命答えてくれました。

今回八幡市議会の議場で初めての質問をさせていただきました。自分で資料を用意し、原稿を書きながら私の質問に市長や理事者側はどう答えてくれるだろうか。車の運転で言えば若葉マークです。私にとっては最初の質問であってもこれまでに先輩議員が質問しておられるかもしれない。どんな答弁をいただけるだろうか、不安な気持ちで壇上に立ちました。がむしゃらに手を挙げた第一回の質問でしたが終って感じたことは、私の稚拙な質問に明田市長、各部長が丹念な資料を用意して、丁寧に答えてくれたことです。行政の新しい展開となる答弁も引き出せたと思います。

今後共、質問の機会をのがすことなく、精進を続けてまいります。私が質問したことに行政がどう答えてくれたかを速報で皆様にお伝えしてまいります。お気付きの点、足りない点などどしどしお知らせ下さい。皆様のご支援、ご指導を宜しくお願いします。